

スクール・エンパワーメント推進事業【様式】取組み成果リーフレットテーマ：「**学び、交流し、発信する授業**」で目指す**学びの深化**

つきたい力

- 1、主体的に学習に取り組む力
- 2、他者と協働して問題を解決する力
- 3、知識を活用し、表現する力

取組みの概要・ポイント

- ・評価指数（ループリック）を示し、生徒自身が能動的に課題を解決する道筋を作る
- ・ICT機器を活用し、他の生徒と情報を共有しながら、共に学ぶ環境を作る
- ・得た知識をもとに単元のまとめを書き、自らの学びを視覚化、また蓄積する流れを作る

具体的な取組みの流れ

取組み1：情報の共有

②生徒同士の協働的な学習

各教科の特性を生かし、毎回の授業で生徒間の意見交流を活発に行わせる。その中で、他の生徒の意見と自分の意見とを比較させ、意見交流を通して自身の考えを深めさせる。意見を交流する際は、ロイロノートを活用するなど、思考ツールを生かしたいが、プリントと板書で行うことも想定される。

生徒は、協働的な活動を通して、情報を取捨選択する力や、主体的に学ぶ態度を養うことができる。



取組み2：「評価の視覚化」と「学びの蓄積」

①ループリックによる評価基準の提示

「Google For Education」内のアプリケーション(テキスト・スプレッドシートなど)と連動して使える「ループリック」を用いて、課題の評価基準を生徒に提示する。

生徒は、教員側の提示する評価基準を知ることで、目標を設定しやすく、見通しを持って学習に取り組める。

今回学習した内容を踏まえて説明できているか。

S	6ポイント	A	5ポイント	B	3ポイント	C	0ポイント
今回学習した内容を根拠にしなが、自分の考えが書いている。またその内容が整理されており、読みやすく理解しやすい。		今回学習した内容を根拠にしなが、自分の考えが書いている。		今回学習した内容について書いている。		今回学習した内容について書けていない。	

①～④のサイクルを回す

③思考・判断・表現力の育成

自分の考えや、単元で学んだことを①で示した基準をもとに、生徒たちにまとめさせる。

生徒は、今までの学習や①、②で得た知識を複合的に思考、判断し、表現する力を伸ばすことができる。

④学びの蓄積

③で作成したまとめを蓄積させる。
生徒は自身の学びを振り返ったり、他生徒と学びの振り返りを共有することができる。